

修学旅行の際の移動中、国道の側に米軍基地が広がっていることに気づいた。滑走路も戦闘機もよく見えた。そして迎撃ミサイルが北朝鮮の方角に向けて設置されていた。私たちが沖縄へ行った時はちょうど、北朝鮮がミサイルを発射すると声明を出した頃だった。基地で目の当たりにした全ては、今までテレビの中だった。実際に目にしたこと、一つの疑問が浮かんだ。日本は今、本当に平和な国なのかと。

幼い頃から大人たちに「日本は今、平和な国なんだよ。」と教わった。私もそれを疑わなかった。しかし、新聞やテレビでは毎日、どこかの国での何かの紛争が取り上げられる。高校生になった今、沖縄に訪れて気づいた。日本が平和を誓った後も、そのどこかの国で起きている何かの紛争の一つに、日本の沖縄から飛び立った飛行機が関与しているかもしれないということに。実際、沖縄でタクシートの運転手さんはおっしゃっていた。「ベトナム戦争のとき、この滑走路から戦闘機が飛んでいったらしい。」と。

平和なはずの日本から武器を積んだ戦闘機が飛び立つ。そして、人を傷つける。他国の基地であるにしろ、私は矛盾を感じずにはいられない。平和とは、いったい何なのか。武力をちらつかせることで自国だけ守られればそれでいいのか。国際的な平和活動を行う一方で、そんな沖縄を抱える日本。沖縄のことを考え出すと、日本という国自体が大きな矛盾を内包していることに気づく。そして、そんな沖縄で『今』を生きている人たちがいるのだと考えると、ようやく沖縄が抱える問題が立体的に捉えられるような気がする。

その本質は、とても根の深いものがあり、また、その沖縄を取り巻く環境自体も、今なお刻々と変わり続ける。そんな中、私たちに出来ることが何であるかは、すぐには答えが出せない。しかし、少なくとも、オスプレイや普天間飛行場など、沖縄の抱える問題に、もう私は無関心な態度をとることはない。この気持ちだけは揺るがないだろう。

私は沖縄の風をすぐ気持ちいいと感じた。沖縄の海をとてきれいだと思っただけ。けれど今は同時に、沖縄の地に、傷ついた人々が倒れ込む『あの時』の光景が目に見えかぶ。



※ガマ：沖縄本島南部に多く見られる自然洞くつ



『思い』を分かち合うために

『つながり』は自分自身と向き合い『伝える』ことから始まる

松山 宏枝さん 藍中学校教職員

【体験から学び】

教師になって十年が過ぎた頃に私は初めて特別支援学級を担任した。そこで、イライラした気持ちを上手く処理できずパニックや自傷行為(※)を起こすOさんと出会った。日々起こる想定外の出来事に戸惑い、それまでの教職経験をどう活かせばいいのか、専門知識がないと無理ではないかと悩み、暗いトンネルの中から抜け出せずにいた。それでもOさんと合った教科プリントを作り1時間1時間の学習がスムーズに流れるようにと必死で取り組んだ。しかし、彼女のパニックや自傷行為を止められず悪戦苦闘する日々。思いが伝わらないもどかしさにとうとう弱音を吐いた私に、保護者の方が声をかけてくださった。「この子を理解し指導してくれるのは知識を持った専門家ではありません。毎日、この子を見て

一緒に過ごし、試行錯誤しながら一生懸命考えてくれる先生なんです。子どもが一番の理解者として先生のやり方に自信を持って子どもと向き合ってください。思いは必ず伝わります。」と。

私ははっとした。日々の生活の中で自分の思いを押し付けるばかりで相手のことを本当に理解し、接していたのかと。こんな私を責めるのではなく励まし寄り添い支えてくれる保護者の方に本当に申し訳ない気持ちで一杯になった。それから、自分一人で抱え込まず、「困っている」と口に出して周りに伝え、アドバイスの声に耳を傾けられるようになった。すると少しずつ変化が見られるようになってきた。

※自傷行為：つらい感情などで自らの身体を意図的・無意識的に傷つけること

【気づき】

何より信頼してくださる保護者の方と一緒に考え動いてくれる先生方、何かあれば知らせしてくれる交流クラスの生徒たちの存在は大きく、私自身に少しずつ余裕が生まれました。Oさんと一緒に学習するのが楽しい、作業したり物を作ったりするのが楽しいと感じる日々。そんな気持ちがストレートに伝わるのか、孤軍奮闘し必死の形相でやっていた時よりも、私との会話が増え、Oさん自身が部活動やクラスの友達、先生方との関わりを楽しむようになっていった。そんなある日、小さなこだわりからパニックになると思ったOさんが、すっと私の手を握り、「いらいらします。どうしたらいいですか?」と聞いてきた。そして、「どうし

たいの?」と私が返すと、心が落ち着く作業を自分で選び、数分後には穏やかな表情に戻ったのだ。握った手の温かさから必ず思いは伝わる瞬間があるのだと思えた嬉しい体験だった。それから、できることが増え、いろんな事に意欲的に挑戦するOさんの姿に私自身が多くのことを学び、彼女の成長を実感できた。この体験から、「無力だと嘆いているだけでは何も変わらない。悩みは声に出して伝え、周り協力し、時間をかけて生徒と関われば、必ず伝わる瞬間がある。」と気が付いた。

彼女と三年間共に過ごした時間を、『思い』を分かち合い一緒に関わって下さった方々への感謝の気持ちと共に今も愛しく思い出す。

【伝えたい思い】

それから、直球勝負で不器用な私は、出会った生徒や保護者の方、同僚の先生方に助けられ、ぶつかり合いながらも人と関わることの楽しさや温かさをいろんな場面で味わっている。『思い』を出し合える雰囲気や環境作りを心に留めながら。Oさんと出会ってからさらに十数年の月日が過ぎた今も、あの時、特別支援学級を担任できたことで自分自身の課題と向き合い、『伝える』ことの大切さを実感した体験が思い返されてならない。

だから、「悩みを一人で抱え込まず、自分から発信して欲しい。人と関わり『思い』を分かち合って欲しい。また、そんな『思い』に気付ける人になつて欲しい。そして人とつながって欲しい。」こんな願いを抱いて、今日も生徒と向き合う。



わたしのまちの 地域部会開催のお知らせ

～どなたでも参加できます～

参加無料

弥生地域部会

日時：1月17日(金) 14時40分～16時
場所：弥生小学校体育館
講師：兵庫県サイバー犯罪防犯センター職員
テーマ：『ネット社会と人権～サイバー犯罪の現状と防犯対策～』